

鉄道ピクトリアル

2019年8月号増刊 Vol.69 No.8 通巻No.963

<特集> 大阪市高速電気軌道(Osaka Metro)

■表紙 御堂筋線の新鋭31系……………焼田 健

中百舌鳥検車場 2019-6-6
キヤノンEOS5DsR EF TS-E24mm F3.5 L II 絞り f 11 タイム2.6s ISO200

■グラフィック

Osaka Metro WATCHING (1~8・129~133ページ)

石本隆一・大沼一英・金子 聡・松本延之・森田 宏
……………遊川 清・富村哲男・轟木路一・三島達夫・焼田 健
水上 毅・戸塚光弘・編集部

大阪地下鉄70s' (134~135ページ)

……………小林 武・浜村正弘

坂戸直輝コレクション 昭和30年代前半の大阪市営地下鉄案内 (136ページ)

……………所蔵と解説:坂戸直和

*

資料に残る御堂筋線 梅田—西田辺間のむかし

……………資料所蔵・解説 中川和子…111

1960~80年代 御堂筋線の表情

……………写真:佐々木嘉和・篠原 丞ほか…116

思い出の我孫子検車場 ……写真:西尾恵介・木村義治ほか…122

大阪地下鉄の相互直通運転—堺筋線~阪急線の相直開始から50年—

……………写真:大津 宏・下嶋一浩ほか…124

長堀鶴見緑地線の元祖 大阪南港試験線の70系試作車

……………写真:関 敏夫ほか…128

■本文

今月の話題:大阪市高速電気軌道(Osaka Metro) ……編集部… 9

総説:大阪市高速電気軌道(Osaka Metro) ……永澤 良太… 10

対談:Osaka Metroの鉄軌道事業を語る ……中村和浩・今城光英… 17

営業設備とサービ

……………中井洋一・説田隆二・上中知也・田中伸二… 24

輸送と運転 近年の動向 ……安東輝幸・西田英樹… 31

駅務、乗務所のあらし ……矢田靖也・上中知也・佐野 満… 42

輸送指令所の業務と役割 ……廣畑 秀行… 46

車両総説 ……神庭 直樹… 52

検車場の概要 ……石田 昌記… 63

線路と保線 ……小柳 貴志… 72

信号・通信設備の概要 ……中津 利哉… 76

電力・変電設備の概要 ……市原 正人… 80

大阪の地下鉄と私 実務体験とともに振り返る車両の技術

……………堀畑 俊雄… 85

大阪市と市内交通機関市営主義—モンロー主義の成立と終焉—

……………三木 理史… 95

大阪の都市交通 歴史叢書 ……宮武 浩二…101

大阪市の地下鉄回想 ……藤井 信夫…137

大阪市戦前型地下鉄車両の技術史 ……澤内 一晃…146

大阪市地下鉄の旅客流動の推移 ……佐藤 信之…152

御堂筋線10系の足跡 ……天野 一郎…158

大阪メトロ車両—音と色— ……中山 嘉彦…168

大阪市高速電気軌道 御堂筋の出入口バラエティ ……大沼 一英…172

新阪堺電車から大阪市電三宝線廃止まで ……宮武 浩二…181

大阪市高速電気軌道(Osaka Metro)

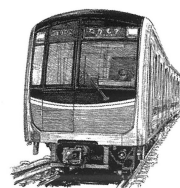
現有車両プロフィール&データファイル2019…石本 隆一…201

(現有車両編成表・主要諸元表・車歴表……………248)

後部車から ……264

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru



カット:松本一雄

今月の話題

大阪市高速電気軌道(Osaka Metro)

長年にわたり大阪市域部における都市交通機関の中核を担ってきた大阪の地下鉄事業は、2018(平成30)年4月1日大阪市交通局から新たに発足した大阪市高速電気軌道株式会社に継承された。愛称は英文字でOsaka Metro、バス事業についてはグループ関連会社となる大阪シティバス株式会社が継承している。大阪市域の地下鉄は1933(昭和8)年、現在の御堂筋線梅田—心斎橋間が始まりで初開業以来86年に及ぶ歴史を持っている。大阪では明治期に開業した路面電車以来、市内交通を公益事業と位置づけ一貫して市営により展開されており、地下鉄も開業時から大阪市営により運営されてきたが、近年の社会状況の変化に基づき、2005年以降民営化の議論が進められ、2019年に新会社発足に至ったのである。新会社は100%大阪市の出資によっている。

発足1年が経過したOsaka Metroは、大阪都心部を南北に縦貫する御堂筋線江坂—中百舌鳥間24.5kmをはじめとした地下鉄8路線計129.9kmと、中量輸送機関ニュートラム7.9kmの路線網で形成されている。地下鉄では御堂筋線が北大阪急行、堺筋線が阪急、中央線が近鉄とそれぞれ相互直通運転を行う。この1年間はまだ目に見える変化は少ないが、駅設備のリニューアルは着実に進められており、主要な一部の駅では新しいデザインが部分的に導入され、大阪の地下鉄新時代が実感できる。また、2025年度に及ぶ中期経営計画が立案され、より安全で利便性の高い親しまれる姿を目指す変貌が描かれている。2025年には大阪万博が開催されることとなっており、そのアクセスとしての期待も大きく、夢洲への路線延伸、新形式車両の開発・導入、自動運転の実用化実験など楽しみな施策も含め、大阪の都市交通の担い手として今後の展開に注目していきたい。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Mehrlcht Ochanomizu Bldg., Kanda
Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan